

農大と 図書館・博物館・動植物園を結ぶネットワーク

学術情報課程通信

人類の知恵、歴史の知恵

東京農業大学 学長 高野克己

東京農業大学は、農学・生命科学分野の総合大学として創立以来三三年を経て、農学の教育研究の殿堂として確固たる地位を築いています。

しかし二万余り前の農業革命からの長い時間を鑑みれば、東京農大の歴史は%程度にすぎません。農学は、人類が生きたために自然と共生し、データを集めて作り上げた人類最古で最先端な学問です。決して十年、二十年前にできた最近の学問ではありません。農学は二万年の人類の英知の塊、噛みつぶえがあります。人類の英知が作り上げ、長い歴史の中で洗練されてきました。

本学は教育研究の理念を実学主義と定め、人類が直面する食料、健康、環境、生命、バイオマエネルギーなどの課題に取り組み、その成果を直接あるいは産業界を通じて社会の発展と安定に寄与しています。

学術情報課程で学ぶ、学芸員、司書コースの履修生は、まさに人類が積み上げた英知と本学の教育研究の果実を広く、多くの人達に還元する役割を担っています。学芸員、司書の教育は文系の大学で主に行われていますが、本学は数少ない理系大学の養成課程であり、課程修了者は広く全国の博物館や動植物園・図書館で活躍し、高く評価されています。また、本学での同課程における学びの特徴は、資格取得のための範囲を超え、農大が持つ本物の多様な教材を用いて直に学習することができるところです。このようにして養われた幅広い教養と専門性が東京農大生の特質であり、宝です。

本学の学術情報課程は、農業、農学を基盤とした人類の知恵、歴史の知恵を学び、その知恵を社会で活かせる力を養成する使命も果たしています。

学部	学芸員	司書
農学部	75	14
応用生物科学部	21	14
地域環境科学部	34	21
国際食料情報学部	8	8
生物産業学部	19	—
合計	157	57

東京農業大学
資格取得者数

東京農業大学
短期大学部
資格取得者数

学科	司書
生物生産技術学科	0
環境緑地学科	1
醸造学科	2
栄養学科	2
合計	5

農学

平成26年 学芸員・司書就職先一覧

学 科	就職先	学 科	就職先
バイオセラピー学科大学院	南相馬市博物館(嘱託)	農学科22年度卒	足立区生物園(嘱託)
バイオセラピー学科	富山市ファミリーパーク	畜産学科21年度卒	横浜市立金沢動物園(嘱託)
生物応用化学科	足立区生物園	森林総合科学科23年度卒	国営みちのく杜の湖畔公園
森林総合科学科	伊豆シャボテン公園	造園科学科24年度卒	大鹿村中央構造線博物館
森林総合科学科	エコギャラリー新宿(嘱託)	アクアバイオ学科20年度卒	多摩六都科学館(臨時)
造園科学科	世田谷美術館(臨時)	アクアバイオ学科21年度卒	南三陸町自然環境活用センター準備室(嘱託)
国際農業開発学科	兵庫県立淡路夢舞台温室「奇跡の星の植物館」	アクアバイオ学科23年度卒	海遊館(嘱託)
醸造科学科	藤枝市文学館(司書・学芸員 嘱託)	科目等履修生	中野区立図書館
生産環境工学科	株・八重洲出版		



防寒用の雪帽子として被り、明治期頃まで使用されてきました。また火災時には水で濡らしたシュロガサを被り消火にあたったともいいます。シュロで細かく編まれているのが美しく、形がどこか大陸の民族の被り物を思わせるようでもあります。(Y)

農事遺産 ① 農大古農具コレクション

資料名:シュロガサ No.795
寄贈者:加藤文一氏
新潟県佐渡郡金井町
収 集:1970年3月28日
形 状:折りたたんだ時の幅 37.0cm
高さ 60.5cm
編上げ部分の高さ 25.0cm

本学「食と農」の博物館では農業生産から販売・流通、さらには衣食住に関連した、全学科に対応する資料を四千点ほど収蔵しています。当館ではこれらを古農具類と呼び、本学独自の分類法により展示公開しています。この歴史は、本学前身の東京高等農学校初代校長の田中芳男が明治三十七年、標本室を設けたことに始まりますが、当時収集のものは置いたことには始まりませんが、戦後、かつての戦火で全て焼失し、現在のものは戦後、全国の校友や父兄が研究や教材として提供されたものです。古農具類は産業考古学会の「日本の産業遺産三〇〇選」の指定を受け、本課程の学生をはじめ広く社会での研究や教育において活用されています。

学術情報課程通信 第3号 GAKUJUTSU JOHOKATEI TSUSHIN

東京農業大学
学術情報課程 発行

〒156-8502
東京都世田谷区桜丘1-1-1
電話 03-5477-2533
レイアウト・印刷/共立印刷株式会社
平成27年(2015)年2月28日 発行

www.nodai.ac.jp/info

編集後記

人類の歴史が遺した物を集め、編み、学び、管理する。学芸員、司書という仕事の面白さは計り知れない。本号より連載の「農事遺産 一農大古農具コレクション」で、農大の蒐集と管理の成果を順次紹介していきたい。(R)

平成25年度 資格取得 状況

来たお客さん達が 持って帰るものが、 我々の成果



市川市動植物園 主幹(学芸員)
松浦 秀治氏
Hideharu MATSUURA
1962年北海道生まれ
1985年東京農業大学畜産学科卒業。
同年より市川市動植物園勤務、現在に至る。

大学在学中、どのようなことに熱中していましたか
学生時代は、野生動物研究会(サークル)に所属していき、動物が好きなメンバーが集まって部活動に明け暮れていました。各自が好きな動物のことを勉強していきにあたって、いろいろな調査方法を調べたりして、集まった時には多くのことに取り組みることができました。この経験がそっくりそのまま今の仕事に繋がっています。

この世界で働き出したきっかけは

私は在学中から様々な自然保護活動をやっていました。その中で環境を守るには大きく二つの行動があると思うようになりました。一つは「木を切るなら俺を切つてからにしろ」と木にしがみつくと直接的な方法。もう一つは人の意識を根本的に変えていく方法。そのため大切なのは、教育だと思いました。多くの人に動物のことを知ってもらうにはどうしたらいいかと考えたとき、この職業が一番適していたんです。動物園というところは遊びに来るところで、博物館みたいに勉強しにくところではないんです。それが一番根拠です。〇歳児から〇〇歳まで来るところだから、皆が必ず人生の中で何度か来るところで、そこで動物たちのことを知ってもらう仕事ができればいいと思った。それが動物園で働くきっかけです。

ライフワークを教えてください

お客さんの心の中に、どれだけ動物たちのことを印象深く残してあげられるかということだと思います。うちの職員はみんなお客さんの前でしゃべるのが好きだし、決して動物を飼ってそれで自己満足しているような連中じゃないのでね、とにかくお客さんともたくさん話をするようにしています。

学芸員・飼育員に必要なスキルは

物事を追及する気持ちや好奇心があること。それに尽きることだと思います。動物のことだけじゃなくて、いろいろなところにアンテナ張っている人っていうのが面白い人で、結局、それが学芸員的な視点の広さを持っている人ということなんだと思います。

今までで忘れられないエピソードはありますか

入って最初にレッサーパンダを担当したんです。レッサーパンダが中国から貰えることが、動物園ができるきっかけのひとつでした。その動物を中国まで取りに行ったのですが、当時は飼育方法も確立していなかったりで、試行錯誤しながら管理をしていました。おまけに市川市が友好都市である中国の樂山市からいただいた動物大使だし、しかも飼育係の



取材 毛利拓哉(畜産学科四年)
小倉弘之(畜産学科四年)

経験が全くない人間がやることになったわけで、もう並のプレッシャーではなかったけれど、それがやっぱり面白かった。

あと、私は大学を卒業してすぐこの動物園の開園準備に携わったので、本当に全くの素人がいきなり動物園を作りなさいと言われたわけなんです。どういう動物園にしていこうかというコンセプトから、どんな動物を飼うかというところまで、全て0からやることのできたのが最大の面白さだったかもしれない。当時はまだ動物園教育という言葉が生まれたての頃だったから、動物園に教育が必要だという認識はあまりなかったし、飼育技術を磨いて各自がスキルアップしていくことが最も大事だという声も多かったんです。最初から教育という部分を前面に出した形で、どうお客さんにアピールできるのかを、開園の前から準備できたことは大きかったですね。

これから学芸員・動物園を目指していく学生にアドバイスはありますか

我々が学生の頃は情報を得ることが一番大事だったけれど、今はその中でどれを選択していくかが一番重要になってくる。同時にどうしても学生の頃は頭でっかちになるから、知識としてはあるけれども、実際に体を動かしてやってみる場が少ないと思う。だから積極的に自分から動いて欲しい。大学の授業に関連してできることでももちろん構わないし、自分一人で山に行つて動物を見るのもいいと思う。パソコンの前で動物の動画を見ているよりは、たとえ会えなかったとしても山に行つた方がいい。そういうことができる年代だと思いますよ。

生態学や行動学に惹かれていた農学科在籍中、司書と学芸員の両方を学びました。図書館情報学専攻の大学院に進み、アメリカと日本で図書館現場を経た後、専任と非常勤合わせて十五を超える司書・司書教諭関連教育に関わってきました。その経験から、農大の学術情報課程には三つの特徴があったと感じています。

一つは、博物館と図書館をとても近い位置で並行して学べた点です。当時は一部科目も共通化されていたと記憶していますが、メディアとしてのモノを考えることで、記録情報や図書館を相対化する視点を与えられたと思います。

次に司書課程でありながら司書教育の枠に収まらなかったことです。司書は図書館法による公共図書館での専門職ですが、農大では、他の司書課程によくある「公共図書館」とはこういうものだ」という形に囚われず、社会の中で



田中 岳文 Takefumi TANAKA
1966年千葉県生まれ
東京農業大学農学部農学科卒業。
埼玉学園大学司書課程ほか兼任講師。

学情の三つの特徴

情報の流れという見方が強調されてきました。各種図書館もまたその要素のひとつとする社会的・俯瞰的視点です。世の情報環境が変化し図書館もまた変わっていく今、その意味を増していると言えそうです。

三つめは、一見図書館と無縁の大学に置かれていたことです。院生時にカリフォルニアバークレー校にバックランド先生の研究室を訪ねた際、「情報について知らなければ情報の扱いを知ることができない」と主題知識と情報サービスとの関係を説かれました。時間の経過とともににより実感できる言葉です。実際、大学・専門図書館はもとより、課題解決支援サービスが論じられる近年の公共図書館界でも、理系出身者の必要性が言われるようになってきています。

情報サービスの世界でもまた、ユニークであることは意味あることなのだと思います。

大学受験の時、農大のアクア

バイオ学科を第一志望にしたのは、海の生物と深く関わることのできる仕事である水族館の飼育係を目指していたからです。入学してから水族館への就職を目指し調べていくなかで学芸員の資格を得ることのできる学術情報課程があることを知りました。講義の説明を受けたところ、内容に展示効果の考え方の基礎を学ぶことに加え、博物館や水族館への実習が含まれることがわかり履修することを決めました。

小樽水族館では毎年多くの実習生を受け入れていますが、実習生の多くが水族館の飼育係が第一志望です。私自身も実習生の対応をすることがあり、その際によく聞かれるのは「水族館職員になるためには学芸員資格が必須ですか?」という質問です。結論から言うとうと必須ではないのですが、学術情報課程では読みやすい色合い、文字の大きさや多さを考えた解説板の作成方法や、展示物の配置も含めたレイアウトの重要性を学ぶことができました。さらに実習でオホーツクとつかりセンターと小樽水族館の二施設に行き、それぞれの施設で生き物に対する姿勢や



新野 雅大 Masahiro NIINO
1991年北海道生まれ
東京農業大学生物産学部アクアバイオ学科卒業。
株式会社小樽水族館公社 飼育部魚類飼育課職員。

水族館に勤めて

お客様への対応を学びました。

現在、私は小樽水族館の魚担当の飼育係ですが、学芸員ではなくても魚たちの種名板や解説板を作成する機会はもちろん、お客様に対して直接解説を行うことも多々あります。また最近、水族館の飼育係や学芸員を目指す本校の学術情報課程履修生の皆さんに、自らの経験を踏まえたリアルな話ができた時は、履修してよかったと思います。このように学術情報課程で学んだことを活かし、様々な方法で多くの人に自分の思いを伝えることのできる水族館の飼育係は、とてもやりがいがある職業です。